

第4回琴電連立検討委員会 議事録

1. 会議の日時及び場所

- (1) 会議名 第4回琴電連立検討委員会
- (2) 日 時 令和4年3月28日(月) 午前10時から午前10時55分
- (3) 場 所 香川県庁 本館21階 特別会議室

2. 出席委員の氏名

中村 英夫、紀伊 雅敦、柏原 亮、川上 純一、渡邊 慶、檜田 幸伸、
秋山 敬介(代理:黒川 博之)、旭 国雄(代理:田中 康一)、板東 和彦、
西川 英吉

以上 10名

3. 議事

- 議事(1) アンケート調査結果の分析
- 議事(2) まちづくりの姿についての検証
- 議事(3) 都市計画の存廃の方向性

議事(1)～(3)について、**資料2**第4回琴電連立検討委員会説明資料により、事務局から説明した後、質疑応答に入った。

【紀伊委員】

資料の説明よく理解できました。事業中止からもう10年以上経ち、都市計画が廃止されていないことで、周辺整備に手をつけられていない状況もあることを理解できましたし、特に現在県立体育館等の建設を予定しているサンポート高松地区の再生のタイミングにおいて、この都市計画が残っているということによって、色々な活動が制約されていること自体が、将来のまちづくりに禍根を残すことになり得るというご説明もありました。

そうした中で、連立の目的自体は踏切を解消して交通改善することだと思いますが、アンケートにあるように、福田町第四踏切と観光道路踏切については、現在の踏切の存在が、一定程度許容されているという判断ができると思います。

一方で、本町踏切は、現時点で許容できないという回答も多く、また私自身、参加している高松港・坂出港長期構想検討委員会等においても、経済団体等から非常に強く早期の改善要望が出ていました。

こうした状況から、将来に渡って、もしこの計画が存続して、なかなかその他のことに手をつけられないことが起こると、香川県の経済自体に負の影響をもたらすことが懸念されます。こうしたことから、今回結論で得られているような、着手の見込みがない状況においては、都市計画を廃止することは、計画を存続させるよりも適切であると私も考えます。

【中村委員長】

ありがとうございました。
他に何かご質問、ご意見等ございますか。

【柏原委員】

内容について理解できました。私も都市計画の存廃の方向性については紀伊委員とほぼ同様の意見です。1点質問ですが、資料18ページのアンケート調査結果の分析の中で、中長期的な対策として、高架の道路のイメージ図が載っています。ここまで対策を行えば8割の方が十分である等の答えが得られています。他方、時間軸で20年、30年かかる話だとこのアンケート結果も変わる可能性があると思いました。国や自治体等整備される方の役割分担もありますので、一概に答えづらいと思いますが、運送事業者や港湾事業者等高松港を頻繁に利用される方にとっては切迫した問題と聞いていますので、具体的なスケジュール感についてお持ちであれば教えて頂けますでしょうか。

【中村委員長】

ありがとうございます。本町踏切の今後の改良の見込みのことだと思います。事務局からお願いします。

【事務局】

委員ご指摘の通り、本町踏切については、アンケート調査結果と運輸団体等から、非常に渋滞しているという意見を頂いていますので、本日、廃止の方向性のご理解等を頂ければ、今後、高松市や関係機関と連携して、暫定整備後の交通状況を踏まえ、連携して対応して参りたいと考えております。また、時間軸についても今後検討していきたいと考えております。

【中村委員長】

ありがとうございます。他にご意見ございますか。

私からコメントになりますが、全体の方向性について、私としては異存のない方向で整理されていると思ってます。

資料の34ページの存廃の方向性で、交通対策、まちづくりの姿の両方の分析結果等を踏まえ、廃止をしても支障がないという整理を頂いております。

紀伊委員等からもご指摘がありましたように、この都市計画が残っていることによって様々なことが停滞をする、或いはその事業活動の展望が見えない形で困っている方もいることから、支障がないという点に加えて、高松市さんの資料にもあるように、やるのかやらないのか白黒をはっきりと方向付けることが求められていることもあると思います。

資料としては、修正する必要はないと思いますが、そういうことを念頭におくと、34ページの一番下の廃止の方向性をもって今後検討を進めることは、この議論の結果として、妥当な方向性でまとめられていると感じました。

他にご意見ございますか。

【板東委員】

連立事業が中止のまま10年間ぐらい経過していることで、沿線のまちづくりの支障になっていることは、資料の31ページの通りでございます。これまでの委員会でも、この状態から早く脱却して、いずれかの結論を得る必要があることを高松市としては一貫してお話ししてきました。

前回の委員会では、それらの結論が得られたとしても、次の具体的なアクションとかステップ等がなければ、現在の10年間の中止の状態が継続して続いていく状態、そういうことに他ならないわけで、前回の委員会で、私が来年度以降のロードマップ、そのスケジュール感をこの委員会で共有しながら議論を深めていく、よい結論を導いていく必要があると提案させて頂きました。今回の資料を見ると、そのロードマップ的なところが、残念ながら示されていませんが、その理由を事務局にお聞きしたいと思います。よろしくをお願いします。

【中村委員長】

ありがとうございます。事務局からお願いします。

【事務局】

本日の委員会において、交通対策やまちづくりの姿の検討を踏まえ、ご説明をさせて頂きましたが、今後のスケジュールで示した通り、次回の第5回検討委員会において、廃止に向けての住民の合意形成の手法や、具体的な法的手続きのスケジュール等をお示しし、検討して頂きたいと考えております。

【板東委員】

次回の第5回検討委員会では、スケジュールやロードマップ的なものが示され、スケジュールも含めて議論を深めていくという認識でよろしいですか。

【事務局】

本日、廃止の方向性をもって今後検討を進めることが了承頂ければ、そういうことで進めて参りたいと考えております。

【板東委員】

了解しました。

【中村委員長】

ありがとうございます。仮に都市計画を廃止を含めて見直す形になると、県が定める都市計画もあれば、市が定めるものもあります。それらの整合を取りながら、地域に対して説明をしていく形になるでしょうから、板東委員から話がありました今後のスケジュールは、きちんと共有して、具体的なアクションを起こしていくことが非常に大事だと思いますので、第5回でしっかりと提示して議論していくということです。是非よろしくお聞きしたいと思います。他にご意見ございますか。

【紀伊委員】

スケジュールの話で、私からも是非、第5回検討委員会でどれぐらいのスケジュール感でやられるのかをお示し頂きたいと思います。過去10年間、都市計画が存続することで、色々なことが制約されてきましたので、この廃止は、今後おそらく都市計画審議会で決めることになると思いますが、それがまた遅れると引き続き問題が残ってしまうこととなりますので、是非この委員会でスケジュール感を示して頂きたいと思います。

【中村委員長】

ありがとうございます。他にご意見はございますか。

それでは概ねご発言も出揃ったようです。本日の第4回検討委員会では、今後に向けて、存廃の方向性の結論を得ることが大きなミッションだったと思います。これを踏まえて第5回目以降、さらに今後の議論が進むこととなります。そういった意味で、本日事務局から説明がありました琴電連立の都市計画については、廃止の方向性をもって今後検討を進めるというご提案でした。これについて、この方向性で検討を進めることでよろしいでしょうか。

特にご異議がないようですので、今後は廃止の方向性で検討を進めて頂ければと思います。

そして、各委員から意見があったように、次回第5回でスケジュール感も含めて、どのように住民の合意形成を図っていくか等について、議論ができるように準備して頂ければと思います。

なお、これまでの存廃の検討の論点である交通対策については、住民の意見を聞くアンケート調査、或いはヒアリングなどが実施されています。一方で今日説明がありましたもう一つの論点であるまちづくりの姿の未来ビジョンについても、これから住民のご意見等を十分反映して頂きながら検討を進めて欲しいと思います。

事務局においては、それらの進捗状況等も踏まえ、住民との合意形成の方策等をどのようにするか十分に検討して頂くようお願いいたします。